

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅶ（家事）	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤 久・石岡和志・山田克宏	開講期	2年後期	単位数 1

### 【授業の主題と目標】

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行なうための知識・技術を習得する学習とする。また、家事技術が自分自身の生活に直結していることを理解し、対象者の日常生活に欠かせない家事援助の知識と技術を修得することを目標としている。

### 【到達目標】

生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状況に応じた家事を自主的に行なうことを支援するための基礎的な知識・技術を習得する。

### 【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション・家事支援の意義と目的①（1. 自立生活を支える意義と目的）（石岡）
- 第 2 回 家事支援の意義と目的②（2. 家事支援におけるアセスメントと ICF の理解）（石岡）
- 第 3 回 家事に参加することを支える介護①（参加を支える介護の工夫、配食サービスの利用）（石岡）
- 第 4 回 家事に参加することを支える介護②（意欲を出す働きかけ、買い物、家計）（石岡）
- 第 5 回 家事の介助の技法①（裁縫）（工藤・山田）
- 第 6 回 家事の介助の技法②（裁縫）（工藤・石岡）
- 第 7 回 家事の介助の技法③（掃除・ごみ捨て）（山田）
- 第 8 回 家事の介助の技法④（洗濯）（石岡）
- 第 9 回 家事の介助の技法⑤（特別食の調理）（工藤・山田）
- 第 10 回 家事の介助の技法⑥（特別食の調理）（工藤）
- 第 11 回 家事の介助の技法⑦（調理技術の実践）（工藤・山田）
- 第 12 回 家事の介助の技法⑧（調理技術の実践）（工藤）
- 第 13 回 家事の介助の技法⑨（調理技術の実践）（石岡・山田）
- 第 14 回 家事の介助の技法⑩（調理技術の実践）（工藤・石岡）
- 第 15 回 他職種との連携（工藤）

### 【授業実施方法】

演習形式で行なう。

### 【授業準備】

高齢者や障害者の食事について専門書などで予備知識を備えておいてください。

### 【主な関連する科目】「介護の基本」「社会福祉概論Ⅰ」「高齢者福祉論Ⅰ」「障害者福祉論Ⅰ」

### 【教科書等】

介護福祉士養成校協会編集委員会 新・介護福祉士養成講座 「生活支援技術Ⅰ」第4版 中央法規

### 【参考文献】

- ・介護福祉のための家政学実習，建帛社

### 【成績評価方法】

提出物（裁縫・調理・レポート等）70%、出席状況及び授業態度等 30%で総合的に評価する。

### 【学生へのメッセージ】

この授業を通して工夫しながら家事の楽しさを学び、また実際の現場で活用する場面を想定して授業に臨むことを期待する。家政実習室利用時は、中履き、エプロン等を準備してください。